

令和2年3月10日(水)

令和2年度 学校関係者評価

1 最終結果

※ 数値は4段階評価の平均値

区分	評価項目	R元評価 平均	R2.7.9 評価	R3.3.10 評価
健全な児童の育成	子どもは、周りの人に対して思いやりのある行動ができています。	3.8	3.8	4.0
	子どもは、明るく元気にあいさつができています。	3.3	4.0	3.7
	子どもは、大人の声掛けに対して素直に応じています。	4.0	3.8	3.0
	子どもは、交通ルールをきちんと守っている。	3.5	3.8	3.3
	子どもは、危険な行動(遊び)をしていない。	2.8	4.0	3.3
	子どもは、地域の行事に参加している。	3.8	3.5	4.0
	子どもは、地域清掃等のボランティア活動に参加している。	3.8	3.5	4.0
信頼される学校づくり	学校は、教育活動の様子を学校便りや学級通信等で分かりやすく知らせている。	3.8	4.0	4.0
	学校は、整理整頓され、施設・設備等が整っている。	3.8	3.8	4.0
	学校は、花と緑の美しい環境づくりに取り組んでいる。	3.5	4.0	4.0
	学校は、地域との連携を図ろうとしている。	3.8	3.8	3.7

2 御意見等

- 児童の挨拶や返事など、日によってむらが見られることがあるため、今後も継続した指導と声掛けを行っていただきたい。
- 地域の方が児童に「今日、学校はどうだった？」と問いかけた際、応答が不足していることがある。
- PTA主催のイベントの取り組みなど、学校は、様々な行事を通して地域およびPTAとの連携を図っている。
- 学校は、一生懸命に活動する子どもの長所を伸ばしている。
- 学校は、様々な体験活動を通して、児童一人一人の個性を伸ばす指導を行っている。今後も取組を継続させてほしい。
- 地域は、子どもの姿から、先生たちの頑張りをよく理解している。地域としても、コロナ禍ではあるが、最大限の協力をさせていただきたい。
- 地域としても、地域住民に対して、学校の教育活動に興味をもってもらえるような働き掛けを行っていききたい。
- 学校は、歩いて登校する指導を、今後も継続してほしい。
- 学校は、体力づくり、学習指導とともに結果を出している。今後も学校の様子を見守っていききたい。

3 今後の取組

- 全教育活動において、目的意識や相手意識を明確にした体験的な活動を推進していく必要がある。
- 全教育活動において、自分の思いや考えを伝え合う活動を位置付ける必要がある。
- 遠足や桜島周遊、集団下校等と安全指導を関連付けて指導する必要がある。
- 家庭学習においては、低学年からの日記指導等を通して、学びや活動の内省を促す必要がある。